徳島発早期収量の多いイチゴ新品種育成

[研 究 課 名]　農産園芸研究課（野菜・花き担当）

[共同研究機関]

[研 究 期 間]　平成26年度～28年度

■　研究の背景・目的

● 本県では徳島市，小松島市，阿南市，阿波市を中心に約90haで促成イチゴが栽培されており，主力品種の「さちのか」が約70%を占めています。
● 「さちのか」は，果実が硬く，良食味であるため市場評価が高い一方で，収量が平均3t/10aと少ない現状があります。さらに，近年は地球温暖化の影響で花芽の形成が遅れる傾向があり，販売単価の高い年内収量は少なく，収益性が低下してきています。
　また、炭そ病に弱く，薬剤等による決定的な防除はできていないのが現状で，育苗時に全滅するケースも見られ、安定栽培の大きな課題となっています。
● このため，年内から収量が多く，炭そ病抵抗性を持つ徳島県独自の品種が生産現場から強く望まれており，平成20年度から研究に着手しました。

■　研究の成果

● 平成24年度に「さちのか」を子房親(♀)に，早生で多収性であり，炭そ病抵抗性を持つ「かおり野」を花粉親(♂)として交配し，平成25～26年度に後代系統から選抜，平成26～27年度に特性を調べるとともに現地栽培試験を重ね，収量性・品質の高い有望系統を得ました。
　この系統の特徴となっている『豊かな収量』『鮮やかな紅色』をイメージし「阿波ほうべに」と命名し，2016年12月に品種登録出願を行いました(登録出願番号第31665号)。
● 草姿は立性で,「さちのか」よりやや強い草勢です。草高は「さちのか」よりやや高く，葉は「さちのか」よりやや大きくなります。
● 果形は円錐形で，果皮色は鮮やかな赤，果肉色は淡桃、果心は白です。
● 11月下旬から12月上旬より収穫が可能で,「さちのか」より約10日以上早くなります。
● 年内収量は「さちのか」の1.3～2倍で，栽培期間中の総収量は約30%多収となります。
● 糖度は「さちのか」と同程度です。また,果実の硬度は「さちのか」と同程度で，流通性に優れます。果実の平均果重は20g以上で「さちのか」より大果です。
● 炭そ病に強い抵抗性を持っています。

■　期待される効果，今後の展開

● ①単価の高い年内収量が増えること,②総収量が増えること,③2L率が上がることで，イチゴ生産者の収益向上が期待できます。また、炭そ病に強く栽培の安定化が図れます。
● 今後は,「さちのか」の補完品種として「阿波ほうべに」の導入をすすめるとともに，「阿波ほうべに」に最適な栽培方法を検討し，栽培マニュアルを作成します。

徳島発早期収量の多いイチゴ新品種育成

早期収量が多く，炭そ病に強いイチゴ新品種「阿波ほうべに」を育成しました。

研究の背景・目的

- 本県の主力品種「さちのか」は，高品質で市場評価は高いものの，近年の地球温暖化で育苗期が高温多雨になり，花芽形成の遅れによる販売単価の高い年内収量の減少や炭そ病の激発により経営が不安定となっています。
- このため，年内の収量が多く，炭そ病抵抗性を持つ徳島県独自の品種が生産現場から強く望まれていました。

研究成果の内容

- **草姿は立性で，「さちのか」よりやや強い草勢です。草高は「さちのか」よりやや高く，葉は「さちのか」よりやや大きくなります（図1）。**
- **果形は円錐形で，果皮色は鮮やかな赤，果肉色は淡桃，果心は白です(図1)。**
- **収穫開始は「さちのか」より約10日以上早く，年内収量は「さちのか」の約1.3～2倍(図2)で，4月末までの収量は約30%多収です(データ省略)。**
- **糖度及び硬度は「さちのか」と同程度で，果実の平均果重は約23gで「さちのか」より大果です(表1)。**
- **炭そ病に強く，抵抗性品種「宝交早生」と同等の抵抗性を持っています(表2)。**

図1 「阿波ほうべに」の草姿、果実

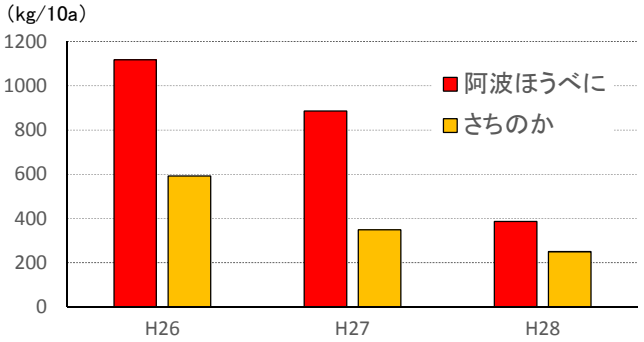

図2 「阿波ほうべに」「さちのか」の年内収量の比較

表1 「阿波ほうべに」「さちのか」の果実品質

年度	品種名	糖度(Brix)		硬度(g)		平均果重(g)
		頂果房	腋果房	頂果房	腋果房	
H27	阿波ほうべに	10.2	11.2	273	363	22.8
	さちのか	9.6	11.7	184	314	17.3
H28	阿波ほうべに	10.0	8.5	413	258	23.5
	さちのか	10.2	8.9	406	301	20.1

表2 「阿波ほうべに」の炭そ病抵抗性

品種	発病株率（%）	発病指数	枯死株率（%）
阿波ほうべに	30.0	7.4	0
宝交早生	23.3	4.7	0
芳玉	100	97.4	90.0

注)「宝交早生」：抵抗性、「芳玉」：罹病性
炭そ病菌(*Colletotrichum fructicola*)の胞子懸濁液（5.0×10^{5}／ml）をポット苗30株に噴霧接種後2週間の値

導入メリット

- **単価の高い年内収量が増加するとともに，総収量が増加するため，収益の増加が期待できます。**
- **果実が大きく硬いため，市場ニーズにマッチしており，ブランド化が期待できます。**
- **炭そ病に強いため，安定生産が可能です。**

生産者の皆様へ

- **草勢は「さちのか」より強いので，電照時間は「さちのか」より短くしてください。**
- **草勢が強すぎると，頂果房の乱形果や腋果房の不受精果が発生しやすくなります。**

問合せ先　農産園芸研究課野菜・花き担当
電話 088-674-1958